



土木

市民の社会活動・経済活動の基盤「道路」  
「つくる・守る・使う」ことで  
京都をより良いまちへ

課長級

建設局道路建設部道路環境整備課事業促進担当課長

大石 大輔 Oishi Daisuke 平成14年度採用

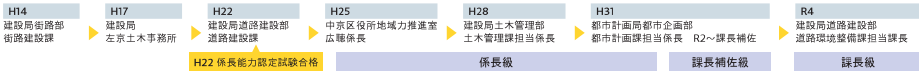
土木技術者として京都のまちづくりに貢献したい、そんな思いを胸に入庁し、これまでに都市計画道路やバイパス道路の整備、トンネルや横断歩道橋の維持補修や長寿命化計画の策定、道路利用者へのマナー啓発による交通問題対策などの業務に携わってきました。「つくる・守る・使う」といった様々な立場から道路に関する仕事に携わる中で、道路が市民の社会経済活動の基盤となり、まちづくりに必要不可欠な都市インフラであることを改めて実感しています。いずれもやりがいのある仕事でしたが、中でも区役所で取り組んだ交通問題対策では、まちなか細街路において歩行者が優先される「通りの復権」を目指し、コミュニケーション施策を用いて地域住民や事業所、物流事業者など道路を利用する人の意識や行動に働きかけることで、利用者目線で道路の使い方を考える貴重な経験となりました。

現在は三条通や河原町通、大手筋通などの無電柱化の推進に携わっています。チームのリーダーとして、コストと時間を要する事業を円滑に進めるのに同時に、メンバーと試行錯誤しながら、より推進力あるチームづくりを目指す組織運営に、責任感とやりがいを覚えています。

これからも新しいことにチャレンジする気構え、チーム一丸となり目標に向かって進み続ける粘り強さ、多様な関係者と共に課題解決に向けた仕組みを創造していくマインドを忘れることなく、京都のまちづくりに今以上に貢献していきたいと考えています。もちろん、そのためには新しい仲間が必要で、世界の心を魅了する都市で仕事をしたいという皆さんの熱量が、京都をより良いまちへと牽引するエネルギーになると信じています。

私たちと一緒に、京都市の新たな歴史の1ページを創造していきましょう。

主な経歴



係長級

産業観光局観光MICE推進室メディア・国際戦略係長

梁川 舞子 Yanagawa Maiko 平成24年度採用

現在、インバウンドの誘致や観光プロモーションに関する業務を担当しています。具体的には京都市観光協会と連携し、京都観光オフィシャルサイトや海外情報発信・収集拠点、海外メディア取材支援等を通じた情報発信のほか、京都市認定通訳ガイドの育成・活躍支援といったインバウンド観光の受入環境整備などに取り組んでいます。京都市では、市民生活と調和した持続可能な観光を目指しており、京都の観光情報だけではなく、京都観光モラルや観光客の分散化に資する情報等の発信にも重点をおいて取り組んでいます。

また、京都文化交流コンベンションビューローを中心として、積極的なMICEの誘致・開催支援を行っており、国連主催の大型国際会議をはじめとする多くのMICEが京都市で開催されています。

京都市の仕事は内部管理もあれば事業の実施もあり、その業務は多岐にわたります。これまで4つの部署を経験しましたが、それぞれの仕事内容は全く異なるため、部署を異動するたびに様々な経験を積み重ね、自分が成長したと感じられることが仕事のやりがいにつながっています。その中で特に印象に残っているのは、大学政策を担当していたとき、今後5年間で取り組むべき施策をまとめた「大学のまち京都 学生のまち京都推進計画」を策定したことです。有識者や大学関係者の方との議論を重ね、市民の皆様からも多くの意見をいただくながら、今後の本市施策の指針となる計画を策定できたことは大きな自信につながったと思います。

京都市には、先進的な取組も多く、都市特性を活かした幅広い業務が経験できます。その経験を自身の成長につなげ、様々な方面から市民生活を支える一助になればと思っています。山紫水明の美しい自然と悠久の歴史に培われ、文化や伝統に彩られたまち「京都市」で、このまちの未来のために一緒に働きましょう。

主な経歴



行政

山紫水明の地「京都」  
様々な経験を自身の成長につなげ  
市民の方の暮らしをより豊かにする

撮影場所:旧三井家下鴨別荘

特集

京都駅周辺エリアにおける文化芸術を基軸としたまちづくり



これまで一緒に取り組んできた京都芸大生の皆さんと

京都駅周辺エリアを舞台に  
かつてない文化芸術の動きを生み出す

京都駅の東部・西部エリアの活性化推進を担当しています。具体的には、京都市芸大生やアーティストと地域の方との相互理解を深めるため、作品展や演奏会を飲食店など地域の身近な場所で開催するほか、広報誌「STORY」で地域向けに京都駅周辺のカルチャーを発信しています。これらの業務を通して、様々なアーティストや地域の方と知り合いになれただけでもいい経験になったと思います。おそらく現時点で、京都芸大生に知り合いが一番多い職員ではないでしょうか。この数年間で着実に京都駅周辺エリアにおいて、アーティスト・学生・地域・商店街などの間に交流や絆が生まれ、これまでになかった新しい取組が動き出しています。そのきっかけに自分が携わったと思うと、この仕事をして良かったと実感しています。



行政

文化庁  
京都移転

京都市立芸術大学  
京都市立美術工芸高等学校  
京都駅東部 移転

京都駅周辺エリア  
(西部・東部・東南部)の  
活性化

京都ならではの「文化と経済の好循環」を  
京都から日本、そして世界へ

京都市では、京都駅周辺を西部・東部・東南部の3つのエリアに分け、それぞれの活性化将来構想に基づき、地域や事業者と一体となって文化芸術を基軸としたまちづくりに取り組んでいます。

西部エリアでは、「多彩な地域資源をつなげ、京都の新しい賑わいを創出するまち」に向け、地域で活動するまちづくり団体の支援等を中心に活性化を進めています。

東部エリアでは、このエリアが「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンとなるよう、京都市芸大移転を機に、地域と文化芸術との接点をつくることで、地域に文化芸術を身近に感じてもらえるよう、取り組んでいます。

東南部エリアでは、未活用の市有地にアート集団「チームラボ」等の施設を誘致するなど、若者を中心とした新たな人の流れを生み出すまちづくりに進めています。今後は、それぞれのエリアの地域特性をいかしたまちづくりを進めるとともに、市有地の有効活用も図りながら文化が経済的価値を生み出し、経済が文化を支え、経済が活性化する京都ならではの「文化と経済の好循環」を京都駅周辺エリアで具現化し、その効果を市域全体、日本、世界に波及していきけるよう取り組んでいます。



行政

文化芸術によるまちづくりに  
様々な立場の人たちと共に取り組む

平成28年度に策定した「京都駅東部エリア活性化方針」の推進を担当しています。直近では市有地を活用したアート複合施設の整備や、地域の方にアートの魅力を身近に感じいただける機会づくりなど、文化芸術によるまちの活性化に向けた事業を幅広く実施しています。文化芸術とまちづくりという本来別々の部署が担う施策の間で、常にバランス感覚を持ちながら業務を遂行することは大変ではありますが、それでも地域の町内会

長からアート関係者まで、様々な立場や考えの人たちと話し合い、知恵を絞りながらまちの活性化のために何が必要なのかについて、自分の思いも大切にしながら具体化できるこの仕事に大きな魅力とやりがいを覚えています。

総合企画局プロジェクト推進室  
プロジェクト第四係長  
山本 亮太郎 Yamamoto Ryotaro  
平成29年度採用

写真は移転後の京都市立芸術大学外観